

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和 7 年 7 月 3 日 サークルき～ぽん

会長

今日は高齢者の生きがいや居場所作りについて市長と話し合いたい。

市長

市民と市長の対話集会として、サークルき～ぽんとは二回目の開催。今回は生きがいの話やひと・まちテラスの活用について聞きたい。

参加者

定年後の男性が全くまちに出てこないことに驚いている。ボランティア活動はほとんど女性ばかりで、中津川市の定年退職した男性は何をしているのか疑問である。

市長

男性もさまざまな活動をしている。地域の区長会やまちづくり協議会、学校関係の見守り隊など、私はむしろ男性と会うことの方が多い。

参加者

20 年以上地域のサークルやボランティア活動をしているが、男性の参加が非常に少ない。介護予防の観点から男性の外出機会を増やす必要がある。男性の興味を引く企画を市でも増やしてほしい。

市長

どのような会に男性が少ないのか具体的に知りたい。

参加者

区の行事では、区長や役員以外の男性は参加しないが、木を切るなどの役割を頼むと出てきてくれる。きっかけとなる最初の一步が難しいようである。

参加者

区長経験者など、社会的に出てきている人が中心。男性は行動範囲が限られがちで、きっかけづくりが必要である。

市長

市民講座は年間 190 講座あり、幅広いジャンルがある。市内各地の公民館で開催しており、講座をきっかけにサークル活動を始める方も多い。

参加者

歴史講座に 10 年参加していたが、最近中央公民館での歴史講座がなくなってしまった。

市長

男性がもっと外出するきっかけになるアイデアがあれば聞きたい。

参加者

苗木城などの話題に男性が集まってくる。

市長

苗木城は来年築城 500 年を迎えるため、さらに地元の方に知ってもらいたい。また、マレットゴルフが非常に盛んで、毎週 100 人近くが参加する大会が開催されている。60 代から 90 代近くまで幅広い年齢層の方が参加している。

参加者

マレットゴルフが盛んなのは、マレットゴルフ場の管理がきちんとしており、適正な入場料でプレイできるからである。以前、マレットゴルフ場建設を相談したが、作った後の維持管理が地域任せということで実現しなかった。

市長

老人クラブでは週に何回か集まり、将棋、囲碁など、各自好きなことをしている。地域によってさまざまな工夫を凝らした活動をしている。

参加者

老人会がなくなりつつある。若い人が入るとすぐ役員をやらなければならないため、元気な人は入らない。そうした支援も必要ではないか。

市長

老人クラブへの支援は行なっている。関心を持ってもらえるような市民講座やセミナーの企画が大事である。男性が多く参加するような内容を参考にしたい。

参加者

中津川市は、狭い道が多く、車の行き違いが困難な場所が多い。消防団でも役員になりたくないという理由で若い人が入りたがらない。

市長

どの団体も会員集めに苦勞しているという声を聞く。消防団など若い人の団体も高齢者の団体も同様の課題を抱えている。

参加者

公民館が改装されてきれいになったが、日常的な展示ができなくなった。きれいなロビーも良いが、市民の活動状況がわかることが重要である。

市長

順番に交代で展示することは大事だと思う。「こんなことやってるなら参加してみたい」というきっかけづくりにもなる。確認して対応したい。

参加者

車をあまり使わずバスを利用しているが、本数が減ったり値段が上がったりして、車を常時使わない人が動きにくくなっている。補助などの検討をお願いしたい。

市長

高齢者の免許返納で行動範囲が狭くなったという話をよく聞く。地域によって交通手段の悩みが違うため、それぞれの地域に合った交通手段の支援を考えている。コミュニティバスの運行など、地域との連携を取りながら引き続き検討したい。

司会

次のテーマ「ひと・まちテラスを中心とした中心街作り」について話し合う。

参加者

「市民協働」という取り組みが最近できなくなってきており、退化している。「業者でやる」「お前たちに任せる」「補助金をカット」など、市民協働から外れてきている。

参加者

ひと・まちテラスを使い始めて、緑が全くないことに気づいた。「市民の憩いの場」というアピールだったのに、できたものは冷たい感じがする。市民の作品展示があることで、暖かさやつながりが生まれる。以前あったご意見箱も無くなった。

参加者

「ぐるり」という若いお母さんたちのイベントを見た。子どもが使わなくなったも

のや着なくなったものを持ち寄って交換する取り組みで、子どもたちの遊び場も作っていた。高齢者も同様の取り組みをすれば良いと思う。

参加者

読書サークル連絡協議会で、琵琶の演奏会を六斎市の日に開催する。使用料が 5 千円程度かかるため、にぎわいを目的とした時には補助や減免があると良い。

市長

イベント開催時には市や教育委員会の後援申請を取り、書類提出や報告をしてもらえば会場使用料の減免措置がある。

参加者

「こういう方法がありますよ」ということを窓口で教えてもらいたい。

市長

「こんなことをやりたいがどうか」と聞いていただければ対応できる。

参加者

ひと・まちテラスで、イベントの申し込みについて受付に聞いたら「わからない」と言われた。受付でもある程度のことは知っておいてほしい。

参加者

運用上、にぎわいのレベルに応じて減免するなど弾力的な運用があっても良いのではないか。

参加者

申請時に「共催にしたほうがお得ですよ」というアドバイスをもらえると嬉しい。

市長

それは無理ではない。気配りが足りず申し訳なかった。

参加者

馬籠の藤村記念館が衰退している。学芸員もない状況で維持が大変になっている。市の大事な文化財として、もっと力を入れて取り組む必要がある。以前は有名作家の講演や夜明け前の講座などがあったが、現在は一切ない。

市長

実態把握をしながら検討したい。需要と供給の関係を考慮し、小諸市や大磯市との姉妹都市連携も活用しながら取り組みたい。

文化スポーツ部長

藤村記念館については、市の学芸員が協力して企画展を進めている。中央公民館の展示については、ロビーでのルールを決めて、市民の作品展示ができるよう準備している。新しく整備したギャラリーも積極的に使ってほしい。

参加者

公民館とひと・まちテラスの違いで使いにくさを感じる。公民館は相談すれば親しみがあるが、ここは使いにくい。

ひと・まちテラス所長

「こういうことがしたい」と来られた時に「できません」とは言わない。「こうしたらできる」と提案する。民間の方にどれだけ使ってもらえるかが重要である。

参加者

ご意見箱を常時置くことは無理か。

ひと・まちテラス所長

以前置いていたが、あまり利用がなかった。現在は期間を決めて12月から1月にかけてアンケートを取り、結果をホームページで公開し、来年度につなげている。

市長

やりたいことがあれば担当課やここで相談してもらえば、他の企画者とのマッチングもできる。遠慮なく話してほしい。

ひと・まちテラスは、開館以来多くの方に利用いただき、秋頃に入館者100万人になる予定である。年齢問わず多くの方に使われ、まちの拠点になりつつある。市ができることは限られるが、空き家・空き店舗活用によってまちがにぎわい、人が出歩くようになる活気あるまちなかにしたい。引き続きアイデアがあれば教えてほしい。

参加者

本日はありがとうございました。